

【研究のまとめ】

～ ひかり探Qプロジェクト～

「探究とは何か知ってるかい？」

光市立室積中学校 3年

笠井 一輝 ・ 中村 海翔 ・ 浦谷 咲帆

「ひかり探Qプロジェクト」発表会（会場：室積中学校）より

1 探究（Q）とは

最初に、私たちが参加している「ひかり探Qプロジェクト」について紹介します。この活動は光市を舞台に自分たちの「気になる」を探し、それを考える場です。

私たちがこの活動に参加するようになった理由は、「光市のことについて、いろんな人と考えてみたい」と思ったからです。

このプロジェクトの実践は、「探究活動」です。これには4つのポイントがあり、1つ目に「課題の設定」、2つ目に「課題に対しての情報の収集」を行います。そして、3つ目にそこで得た「情報を整理」し、4つ目で「まとめる」というステップを続けていきます。



2 課題Ⅰ「どうすれば光市にもっと人が来てくれるのか」

私たちは、光市の「気になる」探しを通して、「どうすれば光市にもっと人が来てくれるのか」という課題をたてました。

最初に、光市の魅力について3つの面があると考えました。それは「海」と「山」と「歴史」です。

次に、「光市に人が来てくれるまで」を考えてみました。まず光市の話題が出た後、光市について調べてみよう！となり、最終的に光市に行ってみようとなるのではないかと…。そこで私たちは、光市の話題が出るという部分と、光市について調べるという点に着目し、ここが重要なのではないかと考えました。

光市の話題が出るという点では、「情報発信の仕方」を、さらに面白くインパクトのあるものにすればよいのではないかと考えました。最近では、「ぺこぱ」の松陰寺さんが光PR大使になられたので、これから期待ができています。

次に光市について調べて、行きたい！と思ってもらえるためにどうするかについて、「光市の魅力を生かした『体験』を行う」ことが楽しくてよいのではと考えました。



そこで、今ある光市で体験できるものについて調べてみました。光市の魅力のひとつ「海」では、マリンスポーツでSUP、バナナボートやヨットがあります。さらに海で行える新しいアクティビティとして、例えばスポートカイトは、海岸を活かして比較的簡単に誰にもできて、面白いのではないかと思います。

また「歴史」に着目すると、訪れた人が江戸や明治の暮らしを体験できたら面白いと思います。例えば伊藤博文公の生活を再現してみても、実際にそれを体験してもらおうとか…。こうすることで、光市の歴史をアピールし、多くの人が文化を共有することにつながると思います。

このように光市には、まだ様々な可能性があることがわかります。



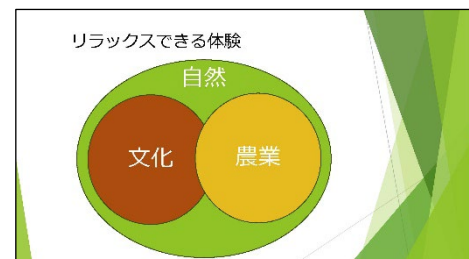
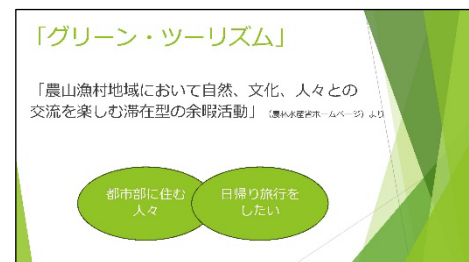
3 課題Ⅱ「魅力ある体験を十分に生かすことができていない」

ここまでの思いや考えを通して、光市は「魅力ある体験を十分に生かすことができていない」のでは…、という課題が生じました。

そこで、「グリーンツーリズム」を取り入れていくとよいのではないかと考えました。調べてみると、農林水産省の定義としてグリーンツーリズムとは「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」とあります。

近年では、都市部に住む人々や、日帰り旅行を楽しみたいという人々に比較的人気があるそうです。グリーンツーリズムを取り入れている自治体として、愛媛県松山市では「農業体験」、「伝統文化の体験」、「地域の食文化を楽しむ」、「宿泊体験」など、自然の中でリフレッシュしながら、地域の文化や農業に触れることができる体験を提供しています。

そこで、光市もグリーンツーリズムを取り入れることにより、光市の自然環境の利用や農業や漁業、食文化の魅力で、光市の魅力を最大限に活かすことができると思います。このように「魅力ある様々な『体験』に重点」を置くことで、光市民から市民以外の人まで、この光市に関心を持ってもらいたいと思います。



4 課題Ⅲ「まず自分たちが光市のことについて、もっと知る必要がある」

私たちは、このプロジェクトを進めていく中で、さらに新たな課題が生じました。それは、光市に人がもっと来てもらえるようにするためには、「まず自分たちが光市のことについて、もっと知る必要がある」ということです。

そこで、私たちが住む室積において、様々な企画や体験等を実践されている「木村家：きむらや(屋号)」の山本統さんにお話を聞かせていただきました。山本さんは上関出身で光高等学校卒業後県外の大学に進学しJTに入社、東日本大震災を機に退職、飲食業の経験を経て現在、「木村家」と「むろづみ空想計画舎」の代表をされています。山本さんが室積に移住されたきっかけは、奥さまが室積出身で室積に魅力を感じたからだそうです。

主な取組としては、室積エリアのガイド業、民泊、空き家の管理運営、地域イベントの企画運営等をされています。地域イベントの例としては、11月末に開催された「室積アートフェス」があります。この企画は室積を舞台に好きなことをしたいという人が集まって計画されたそうです。地域住民や室積以外の人が集まり「やりたいことができる素敵な場」だと感じました。

今回のお話を通して、私たち3人は、何か地域の役に立ちたいという思いから、普賢寺の蔵の掃除のお手伝いをさせていただきました。そこでは、光市に移住された方と一緒に作業をしました。移住された方は地域の歴史を知ることができ、私たちも交流ができて、とても有意義な活動を行うことができました。

また、山本さんのお話で、前市長の市川さんと共に活動されるなかで「市長と語ろう未来ミーティング」において市川さんの「子どもたちの遊びの価値観を変えたい」という言葉が印象に残ったと教えてくださいました。それは、「友達とインターネットでゲームをする、買い物に行くというものだけではなく、人や自然と触れ合うことも遊びとしてほしい。」ということです。子どものときに様々な楽しい経験をしておくと、大人になっても地域に愛着を持つことができます。

さらに、山本さんの室積に対する思いもお話ししていただきました。これまでは、室積のイメージというと、「遠い場所」という考え方の人が多かったけれども、最近では、歴史的な文化があるとか、室積で活動をされている方が増えて、「良い場所」というイメージが広がってきているそうです。

5 「地域肯定感」を高める

みなさんは「地域肯定感」という言葉を聞いたことがありますか？「地域肯定感」は、地域への誇りと言い換えることができます。地域が好きという思いが強い地域には活力があります。そこで、みなさんも「地域肯定感」を高めていきましょう！

そこで、室積で様々な企画や体験を行っている方とお話をしてきました



4.室積アートFES（フェス）



5.清掃活動

清掃
➡様々な人との交流をすることができる



普賢寺清掃の様子➡

子供のころに
様々な楽しいと思える経験をする

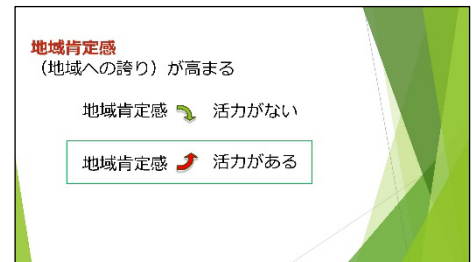


大人になっても
地域への愛着をもつことができる。

まとめとして、これらのことは、室積を盛り上げていくことや、室積の文化の継承や新たな文化の創造にもつながると感じました。「まち」をよい場所としていくためには、「ポジティブに何かやりたいなという気持ち」をみんなが持つことが大切です。

私たちは、室積に人が集まり、盛り上がってほしいという思いで、この活動しています。そのためには、まず、地域の人々が「室積を好き」という気持ちを高めることが大切です。

室積学園には、「室積大好きっ子作戦」という目標があります。まずは、私達中学生がその気持ちを持ち、それを広めていきたいと思います。自分が、楽しいと思えることを追求して、新しい発見や成長に繋げていきましょう。



6 活動を振り返って

- 光市を盛り上げたいという課題を設定していたので、光市や室積など地元の良い一面を再発見できたり、新しい一面を知ることができたりして、この活動に参加してとても良かったです。(浦谷)
- このプロジェクトに参加して自分を成長することができました。活動していく中で、関わってくださる人たちのお陰で楽しく充実した活動をすることができました。日ごろの生活からどうすればもっとよい方向にいくだろうかなど、探究的な視点で物事を考えることができるようになりました。(中村)
- この活動をとおして、問題解決のための多角的な視点を養うことができました。皆さんも興味のある方は、ぜひ「ひかり探Qプロジェクト」に参加してください。(笠井)